

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月26日(月)

会場: 和田コミュニティセンター

参加者数: 33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>大当窯の知名度が低い。山を切り拓いて整備したままである。3年前から和田小学校の野外学習の場として活用して、勉強してもらっている。非常に大切な史跡として後世に残していきたいということである。児童の感想に「山と一緒に」という感想があった。教育委員会にはこれまで努力してもらっているが、目で見えるものとして、窯のレプリカを作って説明するのはどうか。看板も1つしかなく6年生が看板を作ってくれたが、見学に来た人に見えるものがほしい。土地については協力するので、窯跡を造るなどの対応してもらいたい。大当窯が貴重な史跡として目に見えるようにしてほしい。</p>	<p>・寺町廃寺跡に関しては、地域から力を貸してもらっていることを感じている。発掘に関わっている職員も子どもに話をさせてもらったり、子どもたちの発掘の様子を、「広報みよし」の表紙にも採用させてもらった。第6次調査を5月に開催し、45人の見学があった。また、和田小学校、みらさか小学校、川西小学校など92人が見学した。6月9日の説明会には155人の参加があり、関心の高さを感じている。全国に発信していきたい。大当窯については、教育委員会として考えていきたい。第7次の調査を9月から11月に計画しており、しっかり広報していきたい。</p> <p>・大当窯については、地域できれいにしてもらい、感謝している。窯の跡については、文化庁と協議して保存活用計画を作っていくことになる。この計画は、価値が決まって、どう保存し、どう活用するのかをまとめたものである。時間がかかっているのは、この遺跡が大切と考えているからであり、文化庁の指導もあり、これから8年程度かかると見込んでいる。</p>	
<p>寺町廃寺跡の調査を続けてもらっている。近日中に調査に入るといっても聞いている。小学校の児童が歩いて学んでくれている。大当の窯跡から瓦を運んだのではないかとの話もある。廃寺跡の調査もできるだけ早くして、整備計画を進めてほしい。</p>		
<p>11月23日の教育フェスタで寺町廃寺の取組を発表する。市役所の協力も得て、ICTを活用した教育に取り組んでみた。</p>		
<p>集落支援員をしており、2年前に地域を歩いて宝物探しをした「和田マップ」を作成している。市内には史跡や文化財があるが、点在しているので結びつけるものがない。寺町廃寺跡を見に来て、次にどうするかといった時に対応できるものを整備してほしい。新しい価値も見出せるのではないか。まち・ひと基本条例にあるように、地域の人的資源を活かして地域に根差した計画を作ってもらいたい。</p>	<p>教育委員会では3年間かけて、1年目は鶉飼、2年目は三次の古墳、3年目は民俗文化財を取り上げ、冊子を作成するなどして、三次の学習に取り組んでいる。鶉飼については、多国語に翻訳して活用してもらっている。古墳の地図などもあるので、もっと広く市民の手に取りやすいものとなるように取り組んでいく。</p>	
<p>平成30年7月豪雨災害からの復旧状況は、市の施設に関するものだけか。その他のものは無いのか。地域では、すべてが災害であり、市が担当する災害だけでなく、全体を示して、その中で市に関係するものは何件という説明をしてほしい。把握しているものがあれば教えてもらいたい。</p>	<p>広島県の関係する災害河川が3件ある。一つは、国兼川で復旧延長が670m、向江田町の上下川が30m、和知町の一ノ谷川が25mとなっている。</p>	
<p>地域交通の利便性向上のため、バス停の見直しを検討してもらいたい。免許証返納者には、通院、買物が不便になるとの不安がある。国の調査でも同様である。返納者にタクシー券が支給されるが、一定期間であり、将来に不安がある。和田地区では、コミュニティセンター、和田小学校付近はバス停が遠い。向江田にはバス停が2カ所しかない。バス停の変更とバス便の見直しを検討してもらいたい。バス停の利用状況を調査して、バス停を利用しやすい位置に変更してもらいたい。併せて、屋根、ベンチの整備をお願いしたい。</p>	<p>・免許返納者は増加している。返納後の支援も行っている。</p> <p>バス停の設置、便数の変更・見直しについては、運行事業者との協議も必要になってくる。地域公共交通会議もあるので、その中で意見を出していきたい。また、地域では、三次市相乗りタクシー制度の利用も検討してもらいたい。</p> <p>・実態把握が第一であり、利用者ファーストで考えて検討したい。地域交通は全国的な課題である。作木、川西での社会実験が9月末で終了予定であり、その結果も踏まえ、地域の事情に合った仕組みをつくりたい。ICTの活用で克服できる面もある。</p>	

## 令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月26日(月)

会場: 和田コミュニティセンター

参加者数: 33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>相乗タクシーは、要件が足かせとなり、利用できる場所がない。足かせの部分を緩めて、年齢で対応できるのであれば実施してもらいたい。</p>	<p>相乗タクシー制度については、市民タクシー制度を見直して、昨年4月から運用している。最寄り駅から1km以上、複数人で利用という要件があるが、改善要望も聞いており、利便性の向上のために検討していく。</p>	
<p>和田で1番心配されていることは何かというと、地域を回る中では、担い手不足を心配される人が多い。特に鳥獣被害に苦勞されている。農業の担い手確保の対策として、学校教育の中で学習することも考えられるのではないかと。給食調理場の再編について、まち・ゆめ基本条例は素晴らしいと思う。市民、議会が共同して一緒に考えることとされている。今の三次の中でできているか。三次もののけミュージアム建設に関しても尊重されているとは言えなかったのではないかと。まち・ゆめ基本条例を活用して、調理場、PTA、生産者、子どもたちの意見を聞く場を作ってほしい。意見をしっかり聞いて調理場の再編について考えてほしい。田幸のふるさとランチグループの活動を東部地域で補っていくべきとの意見もある。地域と協議もしながら、生産者の意見を聴いてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の担い手確保は、全国的な課題である。三次市農業振興プランで、育成を掲げ支援策を実施している。学校教育での農業体験は貴重であると認識している。新規就農者確保のために、都市部のイベントでのPRなども実施しており、JA三次の研修施設では2名が研修中である。地域・集落単位での話し合いが必要であり、市も一緒に話をしていきたい。和田には、農事組合法人が2つあり、それらとの連携も考えられる。</li> <li>・総合的な学習や理科、社会の中で農業について学習していく。 給食調理場については、参考にさせていただく。</li> <li>・給食調理場については、施設の老朽化に直面している。保護者、学校関係者から意見を聞く場を作るように考えている。</li> </ul>	
<p>水利権について、ほ場整備で勝手に水路が変えられ、従来のように水が流れない。このことについて、話し合おうにも話し合いに参加する者がいない。解決に向けて市に支援してもらいたい。</p>	<p>個別の案件として、別に話を聞かせていただく。</p>	